

JABMEE 設備女子会が活動開始



いる。設女会コアメンバーの宮坂裕美子さん（日建設計）は、「『土木女子』や『機械女子』をお手本に頑張りたい。まずは設女会を知ってもらい、つながりを生み、それを広く深くしていきたい」と意気込む。

JABMEE会員約9000人のうち女性会員は約50人と1%以下の割合だ。しかし建築設備士の資格保有者は全国に3万7000人。潜在的な女性資格者の数は多く、さらに建築学生の女性比率も年々上昇しているという。

設女会の入会資格は、設備や環境に興味を持っている女性ということだけ。JABMEE非会員の技術者や学生だけでなく、一般の人も参加できるのが特徴で、「同じ方向を向いた人に参加してほしい」と徳弘さん。

宮坂さん 横も縦も厚く熱いつながりを

宮坂さんも「組織事務所でも設備設計部門の女性技術者は少ない。会社によっては社内一人という人もいるだろう。みんな仲間をつくりたいと思っている」と設女会のスタートに期待を膨らませる。

JABMEEの広報委員会の全面的バックアップを受け発足した設女会は、情報交換・情報発信の場を設け、一層社会に貢献していくことが活動の目的だ。徳弘さんは具体的な活動内容はこれからとしながら、「設備女子同士の懇親を深めていく。悩みを打ち明けたら、学生には先輩の姿を見せたりする場にしていきたい」と方向性を示す。当面は2カ月に1回ぐらいのペースで食事会・勉強会を開催していく予定。仕事や子育てに支障が出ないようにきめ細やかな会の運営を心掛ける。「また来てみようと思えるような会にしたい」（徳弘さん）とも。



さまざまな業種や年齢の女性に参加してもらい、「横も縦も厚く熱いつながりができれば」と宮坂さん。1年後の設女会の姿の目標について、徳弘会長は「続いていることかな。はじめの盛り上がりだけでなく、ずっと続いたらと思います」と笑顔で語る。

「『環境』に興味を持ち、学び、働く女性技術者は多く、年々増えている。でも社会的に埋もれていて、もったいない」。建築設備技術者協会（JABMEE）が11月18日の「建築設備士の日」に発足させた「設備女子会」（設女会）の会長を務める徳弘洋子さん（徳弘建築設計事務所）はその訴える。地球温暖化防止への対応や省エネルギー化の促進、安全で快適な環境創造に設備技術者が果たす役割は大きく、その存在価値や重要性はますます高まっている。こうした中で女性の設備技術者たちも設計や工事、教育、行政などさまざまな場面で活躍の場を広げている。

また来てみようと思える会に 徳弘会長

技術の世界でも働き方が多様化しており、土木や機械の分野では女性技術者たちが活発に活動して